

教育活動円滑化のための学校施設整備ワーキンググループの関連資料

資料 4－1 教育活動円滑化のための学校施設整備ワーキンググループにおける検討経緯

資料 4－2 論点整理（案）

## 教育活動円滑化のための学校施設整備ワーキンググループ における検討経緯

### 1. 検討経緯

前回（9月24日）の学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議（以下「親会議」という。）以降、以下のとおり教育活動円滑化のための学校施設整備ワーキンググループを開催し、検討を行った。

#### ■第2回WG(10月21日)

- ・教育活動円滑化のための学校施設整備に関する検討について（論点の洗い出し） 等

#### ■第3回WG(12月8日)

- ・教育活動円滑化のための学校施設整備に関する検討について（論点案のとりまとめ）

### 2. 今後のスケジュール

引き続き、教育活動の円滑化を推進するための方策等について検討を進め、親会議において審議いただく予定。

#### ■第4回WG(平成23年1月26日に開催予定)

- ・報告書素案の検討 等

#### ■第5回WG(平成23年2月下旬～3月上旬予定)

- ・報告書素案の検討 等

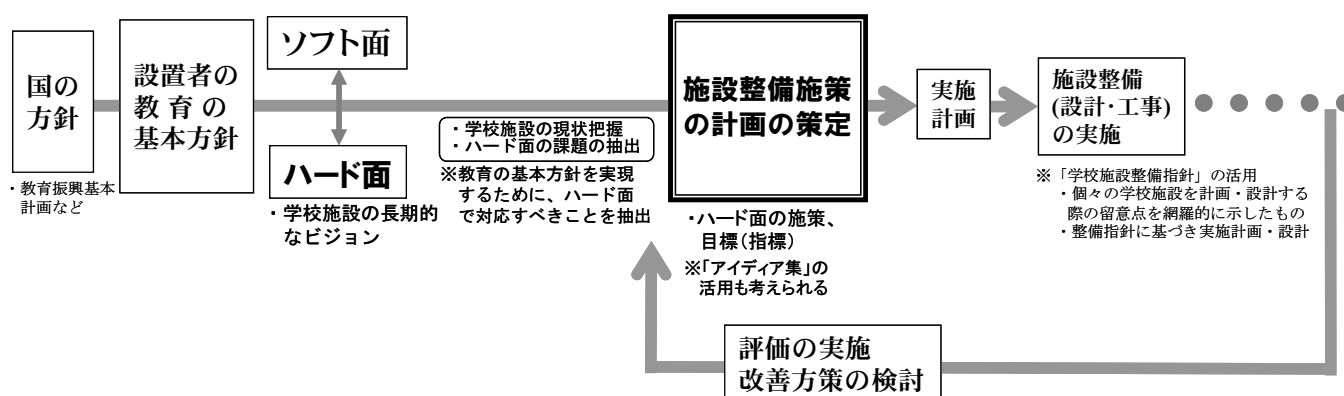
**(来年度以降も検討を継続)**

## 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議 教育活動円滑化のための学校施設整備WG 論点整理（案）

本WGにおいて、地方自治体（設置者）が国の教育振興基本計画等を踏まえ施設整備の目標等を検討し、施設整備施策の計画を策定する際の基本的な考え方や手順についてまとめた“参考資料”を作成するに当たり今後議論すべき論点を以下のとおり整理する。

### 【本WGにおける成果物である“参考資料”の対象範囲】

#### ● 設置者における学校施設整備施策の計画策定の流れ（例）



設置者が目指すべき教育の姿を実現するためのハード面の施策について、その立案のための基本的な考え方等を本WGにおいて取りまとめる

## ■施設整備施策の計画についての基本的な考え方

- ◇ 地方自治体が施設整備施策の計画を策定するに当たっては、長期的なビジョンを明確にし、その目標に対しての現状把握、分析を行い、その結果が計画に反映されることが重要である。そのため、長期的なビジョン設定についての考え方や計画策定の効率的・効果的なプロセス等について検討することが必要である。
- ◇ 教育の質の向上には、「ヒューマン」「ソフト」「ハード」それぞれの教育資源の連携が重要であることから、計画策定に当たっては地方自治体におけるそれぞれの担当部局が連携しながら進めていくことが必要である。そのため、地方自治体内の体制や、地方自治体と教職員等との連携協力体制など計画策定時の体制の在り方について検討することが必要である。その際、関連部局の間をつなぐコーディネータ的人材の必要性等についても検討が必要である。
- ◇ 目標達成が財政状況等により困難になった場合等の地域住民等への説明責任を懸念し、計画の策定・公表に消極的になるといった声もある。定期的あるいは社会状況に応じて適宜目標を見直す旨を予め規定しておくなど、計画の評価、公表の在り方について以下の点に留意しながら検討することが必要である。
  - ・学校施設の評価において示したP D C Aサイクルも踏まえつつ検討していくことが必要である。

## ■教育環境の質の向上と施設整備施策の関係について

- ◇ 国の教育振興基本計画（平成20年7月1日策定）において掲げられた“教育の質を高める”という目標実現のための施設整備施策として、耐震化など安全性に関する施策は、多くの自治体において示されている。しかし、質の高い教育を実現するためには、学習活動に関連する分野などにおいても施策が示されるべきである。質の高い教育の実現のためにはどのような施設整備施策が考えられるのか以下の点に留意しながら検討することが必要である。その際、現状の施設整備が改修整備中心であることなど現実を見据えつつ検討する必要がある。
  - ・学校施設の評価において示した5分野（安全性、快適性、学習活動への適応性、環境への適応性、経済性）において総合的に検討していくことが必要である（イメージは別紙参照）。

- ・学習活動に関連する施策については、理科教育環境の充実など学習指導要領への対応や、少人数教育への対応などについて検討していくことが必要である。
- ・安全性に関連する施策については、耐震化だけでなく機能維持・改善を含めた老朽化対策等についても検討していくことが必要である。

### ■整備の目標（指標）について検討する際の留意事項

- ◇ 目標の設定に当たり把握すべき事項（背景）などについて検討することが必要である。  
（例）
  - ・前提条件としての人口動態、財政力の見通し
  - ・既存ストックの状況（学校数、分布、築年数、老朽状況、改修履歴等）
  - ・上記を踏まえた施設整備需要
- ◇ 安全・安心や快適性は目標（指標）を設定しやすいが、学習活動への適応性は設定しづらい。目標（指標）を設定する際に、学びの場としての多様性の確保と、生活の場としてのアメニティーの重視のバランスをどうとって実現していくのかなど、地方自治体が目標（指標）を設定する際の考え方を検討することが必要である。
- ◇ 目標の具体的な指標例などを示す場合、各自治体の教育方針、人口動態など地域の実状に応じ施設のあり方が変わる状況や、国の方針をどう示すか検討が必要である。

### ■その他検討すべき個別の論点

1. 新築、改築時の整備の目標と改修時の整備の目標との違いについて
2. プロセス事例（グッドプラクティス）の取りまとめ方について  
（施設を活かしている要因についても併せて紹介、1つのプロセスパターンを示しイメージをもってもらおう 等）

安全性	快適性	学習活動への適応性	環境への適応性	経済性その他
<p>耐震化、老朽対策、事故防止・防犯対策等</p>	<p>室内環境の整備、バリアフリー化</p>	<p>学習内容・形態等の進展への対応、情報化等</p>	<p>環境を考慮した整備</p>	<p>計画的・効率的な整備</p>
<p>・事件・事故等から子どもへの安全を確保 ・耐震化等の安全・安心な施設環境整備を支援等</p>	<p>・質の高い空間で学び、生活できるよう、教育環境の整備に取り組む ・バリアフリー化等の施設環境の整備を支援等</p>	<p>・基礎的・基本的な知識・表現力等の習得、思考力・判断力・表現力等の育成 ・教育用コンピュータ、校内LANなどのICT環境の整備等</p>	<p>・体験活動を取り入れた実践的な環境教育の充実・展開</p>	<p>・ . . . . .</p>
<p>【H20年7月策定】 国の教育振興基本計画の記述</p>	<p>基本方針</p>	<p>(例) 一人一人の学ぶ意欲と確かな学力を高めるための推進</p>	<p>(例) 環境教育の充実</p>	<p>・ . . . . .</p>
<p>安全管理指導体制を確立し、安全教育の充実を努める ・不審者侵入などを想定した避難訓練の実施等</p>	<p>子どもたちの学びを支える学校教育環境の整備・充実</p>	<p>(例) 情報モラル教育の推進(情報教育支援員等の配置等)</p>	<p>・自然を生かした様々な体験活動を行う自然教室等 ・環境学習発表会の実施等</p>	<p>・ . . . . .</p>
<p>ハード面の施策</p>	<p>・トイレ改修 ・普通教室に扇風機を設置等</p>	<p>・少人数学級編制 ・少人数指導や習熟度別指導など多様な学習形態の配置等</p>	<p>・太陽光発電装置、発電量表示パネルの整備 ・屋上緑化や家庭芝生化 ・屋上等の断熱化等</p>	<p>・ . . . . .</p>
<p>設置者における計画【例】</p>	<p>ハード面の施策</p>	<p>・少人数学級編制により不足する普通教室等の整備 ・少人数指導や習熟度別指導等に対応するための多目的整備等</p>	<p>・校内LANの整備(普通教室等特別教室において活用できる機器による整備)等</p>	<p>・ . . . . .</p>